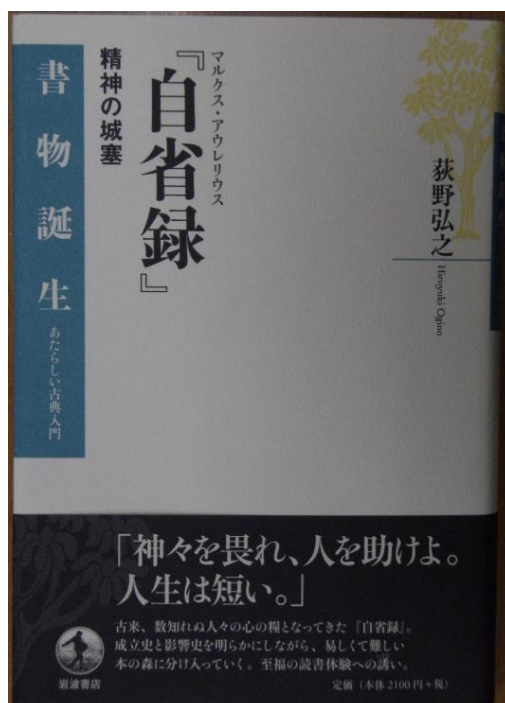


マルクス・アウレリウス『自省録』——精神の城塞

荻野弘之 著

岩波書店刊 2009 年



【目次】

プロローグ

第 I 部 書物の旅路 テクスト生誕の謎

第一章 生きられたストア主義

第二章 マルクス・アウレリウスの生涯とその時代

第三章 エピクテトスの思想——ローマ時代のストア哲学

第四章 ストア派の影響と受容の歴史——賞讃・共感・批判

第五章 『自省録』という書物(一)——成立の謎・写本伝承・翻訳の歴史

第六章 『自省録』という書物(二)——誰のために？ 何のために？

第七章 補論 皇帝のアイコン——目に見えるマルクス像

## 第Ⅱ部 作品世界を読む 自己対話のテキスト空間

第一章 『自省録』のスタイルとその思想

第二章 苦悩する魂とその救済——『自省録』の宗教性

第三章 哲学の理念——観照と実践、規則の変奏

第四章 精神の訓育——想像力の開花・書くことの意味

第五章 謎の第一巻をどう読むか——徳目の博物館・回想と自伝

エピローグ——未来の『自省録』

参考文献

あとがき

マルクス・アウレリウス関係年譜

---